

## 「鉄と鋼」寄稿規程の一部変更について

今回「鉄と鋼」寄稿規程の一部が改正ならびに追加されました。論文御寄稿の際は下記寄稿規程に御注意下さい。

この変更された寄稿規程については第 58 回講演前刷原稿より適用いたします。

なお \* 印は今回改正ならびに追加された項目です。

## 「鉄と鋼」寄稿規程

1. 論文は本誌に載せる前に他の学協会誌およびこれに類する刊行物に発表されないものに限る。
2. 論文は本協会講演大会または地方講演会で予め発表したものであること、ただし協会より特に依頼するものはこの限りでない。また、講演前刷原稿には適用しない。
3. 原稿用紙は本協会所定のものを用いること。
4. 原稿の長さは、図表を含めて会誌 5 ページ（所定の原稿用紙 25 枚）を超えないこと。ただし、講演前刷原稿は図、写真、表を含み 7 枚以上 11 枚以下とすること。
- \* 5. 本協会所定の原稿表紙用紙（またはこれと同一様式のもの）に必要事項を記入して表紙とすること。なお講演前刷原稿はさらに講演申込用紙を添えて申込むこと。
- \* 6. 一論文が数報にわたる場合は、原則として各報ともその副題を本題とし、主題は副題の下に括弧を附して併記すること。

(例) 燃入性におよぼす酸素の影響について  
(鋼の焼入性に関する研究一Ⅲ)

なお同一主題による前報告を引用するときは必ずその報告の掲載された会誌の巻、年、号およびページ範囲を参考文献として文末に記載すること。

7. なるべく平易な口語体を用い、左横書とし、漢字はなるべく当用漢字を用い、かなづかいは新かなづかによること。
8. 論文には必ず欧文題目ならびに欧文要旨（タイプライター用紙 1 枚以内）を、その和文と共に添付すること。和文題目と欧文題目とは必ず一致するように書くこと。ただし、講演前刷原稿には欧文要旨ならびに和文要旨は不要。
9. ゴシック、イタリックを指定するときは、その文字の下にそれぞれ——、~~~~を付すること。
10. 欧文、数字およびギリシャ文字は丁寧に記載し、混同し易い文字等は特に注意して書くこと。
11. 数学式は印刷に便利のように注意し、本文中に挿入するときは  $a/b$ ,  $x/(a+b)$  のように書き、行の上下に出ないようにすること。
12. 参考文献は著者名、雑誌名、巻数、発行年度、号数、ページ数の順に記載すること。抄録、翻訳もこれに準ずる。

(例) R. K. Glass: Blast Furnace and Steel Plant, 46 (1958) 2, p. 198~204

13. 表はなるべく本文中に挿入すること。
14. 図、表、写真はなるべく重複を避け、同一事項を図、表両方で表わさないこと。図、写真は合せて 1 論文 10 個以内を原則とし、編集委員会で取捨することがある。ただし、講演前刷原稿については図、写真の数は、図または写真 1 つが原稿用紙 1 枚に相当するものとして計算し、その数は 5 つを限度とする、なお Fig. 1. (a) (b) (c) (d) などの併列図は紙面を多くとるので採用しない。
15. 図、写真、数表には欧文の題目または説明を必ずつけること。また図、写真および数表中の文字は欧文で書くこと。

(次ページへつづく)